

抗がん成分発見、合成

木村教授(佐大)に最高賞

バイオビジネスアワード

佐賀大学医学部の木村晋也教授(血液内科)らの研究グループが、強力な抗がん作用がある成分の発見や化学合成に成功した。この研究の応用で副作用を軽減する新しいタイプの抗がん剤開発が期待される。医薬関連の研究者らを表彰する「バイオビジネスアワードJAPAN」で最高賞を受賞した。



医学部 血液内科 教授 木村

バイオビジネスアワード最高賞を受け、会見する木村晋也医学部教授(佐賀市の佐賀大学本庄キャンパス)

木村教授は「ブラジルおとぎり草」という木の茎から抗がん作用成分の化合物を発見し、この化合物からより効果の高い化学合成物を生成。二つの化合物が、細胞外に不要なタンパク質が出て分解される前に、抗がん作用を及ぼすことを突き止めた。この働きによって不要タンパク質の分

副作用軽減、新薬開発に期待

解機能を維持しながら、がん細胞を抑え、末梢神経障害など副作用も防げるという。抗がん剤投与後の2次発がんの原因となるDNAの損傷を引き起こさないことも確認した。

バイオビジネスアワードは、大阪医薬品協会や大阪科学技術センターなどをつくる実行委員会が主催。木村教授らの研究成果は、審査する薬品メーカーの担当者から独創性や抗がん剤としての将来性などが最も高く評価された。木村教授は「佐賀から新しい抗がん剤が生まれる可能性を持ち、製薬会社と連携して創薬につなげたい」と話す。

(山本礼史)